

# 諏訪盆地西部における御岳第一テフラの分布と特徴

井口 豊(生物科学研究所)

日本地理学会発表要旨集 103: 285 (2023 年日本地理学会春季学術大会)

Distribution and characteristics of Ontake Pm-1 tephra in the western part of the Suwa basin

Yutaka Iguchi (Laboratory of Biology)

Proceedings of the General Meeting of the Association of Japanese Geographers, Spring 2023, 103: 285

連絡先:

井口 豊

〒394-0005 長野県岡谷市山下町 1-10-6 生物科学研究所  
iguchi.y@lab.ivory.ne.jp

# 諏訪盆地西部における御岳第一テフラの分布と特徴

## Distribution and characteristics of Ontake Pm-1 tephra in the western part of the Suwa basin

井口豊(生物科学研究所)\*  
Yutaka IGUCHI (Laboratory of Biology)

キーワード: 御岳第一テフラ, 諏訪盆地, 糸魚川-静岡構造線, 活断層, 地すべり  
Keywords: On-Pm1 tephra, Suwa basin, Itoigawa-Shizuoka tectonic line, active fault, landslide

### 1. はじめに

東日本における重要な火山灰鍵層の一つに、御岳第一テフラ(On-Pm1)がある。本研究では、諏訪盆地西部の9地点(図1のAからI, いずれも岡谷市)において観察された、その分布と特徴を発表する。



図1. 御岳第一テフラ(On-Pm1)観察位置。背景地図は国土地理院デジタル標高地形図。

### 2. On-Pm1 の分布高度



図2. 御岳第一テフラ(On-Pm1)分布高度(縦方向5倍)。背景地図は国土地理院デジタル標高地形図3D。

図2に、3D画像によるOn-Pm1の分布高度の特徴を示した。これは図1を北東(図右上)上空方向から見た地形を表している。その分布高度は800mから1020mにおよび、全体として見れば、盆地北西部へ向かって増している。これは、諏訪盆地と松本盆地の境界にあたる北北東-南南西方向(図2の右下から左上方向)の隆起運動を反映しているものと思われる。

ただし、盆地西側境界部の塩尻峠付近(図2中央)では、On-Pm1が100mから120mほど諏訪盆地側(図2手前側)へ落下したような分布を示している。これは、この付近を通ると思われる糸魚川-静岡構造線系の活断層の影響を表しているものと思われ、さらに一部には、地すべり地形と思われるものもある(井口, 2013, 2015,

2019a, b, 2020)。

### 3. 塩尻峠付近のOn-Pm1の分布

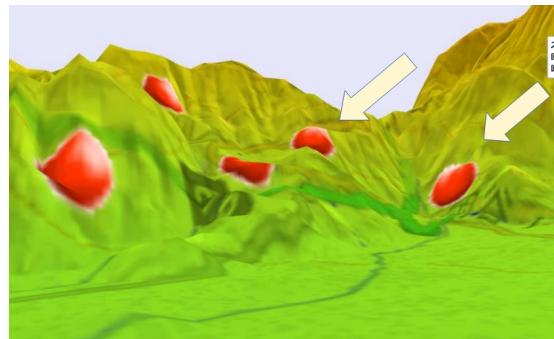


図3. 塩尻峠付近の御岳第一テフラ(On-Pm1)分布高度(縦方向5倍)。背景地図は国土地理院デジタル標高地形図3D。

塩尻峠付近におけるOn-Pm1露頭(図1, D, F, G, H, I)の分布を3D画像にしたのが図3である。図1の南側から見た地形を表している。On-Pm1が西側の山地(図3左)から、2段にわたって低下しているように見える(図3矢印)。藤森(1991)によれば、諏訪湖南西側の山地では、諏訪湖に向かって階段状に低下する断層地形がいくつも認められるとのことなので、塩尻峠付近まで同様な地質構造が続いているのかもしれない。

### 参考文献

- 藤森孝俊(1991)活断層からみたプルアパートベイズンとしての諏訪盆地の形成. 地理学評論 64: 665-696.  
井口豊(2013)長野県岡谷市の塩嶺西山地域における断層と地すべり地形. 日本活断層学会2013年度秋季学術大会講演予稿集: 60-61.  
井口豊(2015)3次元画像で得られた長野県岡谷市塩嶺山地における地形地質学的特長. 日本活断層学会2015年度秋季学術大会講演予稿集: 56-57.  
井口豊(2019a)諏訪盆地西部における御岳第一テフラの高度分布. 日本地理学会発表要旨集 96(2019年度日本地理学会秋季学術大会): 124.  
井口豊(2019b)諏訪盆地北西部の御岳第一テフラ高度分布から推定された糸魚川-静岡構造線活断層系の変位. 日本活断層学会2019年度秋季学術大会講演予稿集: 44-45.  
井口豊(2020)長野県岡谷市大川流域の地すべり地形と御岳第一テフラの分布. 日本地理学会発表要旨集 97(2020年度日本地理学会春季学術大会): 98.